

都民講座

がん遺伝子パネル検査の

最新の動向

【日時】2024年1月20日(土)
14:30~16:00【会場】オンライン開催および
東京都医学総合研究所 2階講堂

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催中止や配信のみの開催に変更する場合がございます。
弊所ホームページ(<https://www.igakuken.or.jp/>)をご確認いただきますようお願いいたします。

・京王線 上北沢駅 徒歩12分
・京王線 八幡山駅 徒歩18分
※お車でのご来所はご遠慮ください。

がん遺伝子パネル検査の最新の動向

都立駒込病院 骨軟部腫瘍科 医長 池上 政周

1975年にがん遺伝子srcが発見されてから50年、発がんを引き起こすドライバー遺伝子異常が多数発見されています。がんはドライバー遺伝子異常に依存して生存するため、その機能を阻害するとがんの死滅がもたらされます。1997年にCD20分子を阻害するリツキシマブが発売されて以来、約160種のがん分子標的治療薬が臨床の場で使用されています。がん遺伝子パネル検査は主に分子標的治療薬が使用可能な遺伝子異常がないかを検索する目的で行われ、日本国内では年間約2万例のがん患者に実施されています。本講座では、がん遺伝子パネル検査の開発と改良の歴史、そしてこれまでに検査を受けた6万症例の情報から得られた知見についてお話しします。

遺伝子を活用したがん治療法の進展

がん免疫プロジェクトリーダー 丹野 秀崇

私達の体は様々な物質で構成されていますが、その中でも生命機能に重要な役割を果たすのがタンパク質と遺伝子です。体内には多種多様なタンパク質が存在しており、それらがあたかもナノロボットのように働き生命機能を維持しています。そのタンパク質の設計図が遺伝子です。遺伝子は種々の要因によって傷付くことがあり、その結果タンパク質が壊れてしまったり、異常なふるまいをするタンパク質が生み出されることがあります。これらのタンパク質の機能異常は、細胞の過剰な増殖、つまりがん化を引き起こすことがあります。今回、タンパク質や遺伝子について解説するとともに、近年の遺伝子を活用したがん治療法の進展についてご説明します。

申込方法

【対面式(都医学研講堂):40名】 ※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催中止や配信のみの開催に変更する場合がございます。

(メールの場合)

件名に「第7回都民講座(対面式希望)」、本文に「氏名(フリガナ)」「参加希望人数」2名希望の場合は「同伴者氏名(フリガナ)」「電話番号(日中のご連絡先)」を入力の上、tomin@igakuken.or.jpまでお申し込みください。

(往復ハガキの場合)

「第7回都民講座申込(対面式希望)」と明記の上、「住所」「氏名(フリガナ)」「参加希望人数」2名希望の場合は「同伴者氏名(フリガナ)」「電話番号」をご記入いただき、〒156-8506 東京都世田谷区上北沢2-1-6 東京都医学総合研究所 普及広報係宛 までお申し込みください。

【Zoomウェビナー:500名】

https://zoom.us/webinar/register/WN_ftzQ4eSbRwKwh-tSsLQ8Uw

登録後、確認メールが自動送信されます。確認メールには視聴用URL・注意事項等が記載されていますので、必ず内容をご確認ください。

※確認メールが届かない場合は、お手数ですが下記の問合先までお問い合わせください。

※お申し込み1件につき、1つの端末(パソコン・タブレット・スマートフォン等)をご使用ください。

※Zoomが使用できる端末は各自でご用意ください。

アプリのダウンロードやパソコンの設定については研究所ではご案内できませんので、各自でご準備をお願いいたします。



申込締切

2024年1月12日(金)